

日本中世英語英文学会 第34回全国大会

2018年12月1日(土)・2日(日)

愛知教育大学

〒448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1

(大会本部：教育未来館1F キャリアデザインルーム)

開催校連絡先：小塚良孝研究室0566-26-2246

第1日 12月1日(土) 14:00-16:30

研究発表 I (3F 多目的ホール)

1. Katherine Group と Wooing Group に見る *Ancrene Wisse* 'inwit'の背景
2. 中世の異端者としてのイエス—N タウン劇の裁判を中心に—
3. パースの女房の結婚における悲哀—Whose Woe Is It Anyway?—

井野崎千代子 (大阪産業大学他非常勤講師)
末松良道 (獨協大学非常勤講師)
野地 薫 (関東学院大学他非常勤講師)

研究発表 II (2F 講義室2A)

4. イングランドにおける古ノルド語由来の地名
—同根語による置き換えと古ノルド語話者の古英語に対する理解力
5. 古英語散文における beon/wesan + 現在分詞構文
6. Anglo-Saxon Soundscapes: The Song of the Sea

小河 舜 (立教大学大学院)
堀口和久 (千葉経済大学)
Britton Brooks (東京大学)

研究発表 III (3F 講義室3C)

7. 中英語期における丁寧標識の機能—韻文と散文を比較して
8. 使役動詞 make の補文内部の統語構造における通時的な研究
9. 15世紀の韻文ロマンス *Ipomydon (B)* の六音節行

泉類尚貴 (慶應義塾大学大学院・
日本学術振興会特別研究員)
村岡宗一郎 (日本大学文理学部
人文学研究科研究協力員)
池上 昌 (慶應義塾大学名誉教授)

第2日 12月2日(日) 10:00-11:30

研究発表 IV (3F 多目的ホール)

10. レジナルド・ピーコックと理性の神学
11. Margaret Paston の書簡作成における amanuenses 達の役割

井口 篤 (慶應義塾大学)
小原 平 (東京慈恵会医科大学)

研究発表 V (2F 講義室2A)

12. 中英語期における liken の意味及び用法について
13. 初期中英語における語頭の黙字の <h>

齊藤雄介 (日本大学非常勤講師)
藤原保明 (筑波大学名誉教授・
聖徳大学名誉教授)

研究発表 VI (3F 講義室3C)

14. 「トパス卿の話」の言語とスキーマの多次元構造
15. 『聖堂参事会員の助手の話』における科学とテクノロジー

中尾佳行 (福山大学)
浅川順子 (慶應義塾大学名誉教授)

*受付は12月1日(土) 11:30-16:00, 2日(日) 9:30-10:50に、教育未来館1F 玄関ホール受付で行われます。
*ポスターセッションは12月1日(土) 12:00-13:00, 2日(日) 9:00-10:00に、3F スペースで行われます。

日本中世英語英文学会 (会長 地村 彰之)

事務局 〒739-8522 東広島市鏡山1-2-3

広島大学大学院文学研究科 大野英志研究室内

Tel. 082-424-6678 Email: jsmes2017@gmail.com

【大会準備委員】 狩野晃一 (委員長) 林邦彦 (副委員長) 福田一貴 工藤義信 佐藤桐子 和田忍 岡本広毅